

## 2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 3 月 14 日作成)

小委員会名	明視環境設計小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>既存の明視環境計画手法の適用例・応用例として、ユニバーサルなサイン計画、防災時の避難誘導表示計画、防犯対策を兼ねた街路の光環境計画など、明視性が重視される環境に特化して、明視性を基礎とした具体的な設計法を提案し、その設計用資料を作成する。2007 年度の活動計画は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員の専門分野における明視環境設計の位置づけを基に、共通する資料や知見、または相違点の体系的な取り纏めを行う。</li> <li>・WG では取り組めていない課題についての中長期的な今後の方針等を議論する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有(設置当初)</p> <p>原直也(関西大学), 奥田紫乃(同志社女子大学), 秋月有紀(京都大学非常勤研究員), 飯村治子(東京大学大学院工学系研究科), 井上容子(奈良女子大学), 岩田三千子(摂南大学), 佐藤隆二(大阪工業大学), 土井正(大阪市立大学), 樋村恭一(東京大学), 村上泰浩(崇城大学工学部), 山田常圭(消防研究所), 山家哲雄(日本大学)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	<p>明視環境設計資料 WG：明視環境設計資料に資するデータの相互の位置づけと整合性を確認する。現有データを用いた標準的な明視環境設計資料の構成を提案する。さらには、標準的な設計資料の整備を推進する。</p> <p>防災照明 WG：巨大地震など大規模災害時における緊急避難行動及び救助活動を担保する屋外防災照明設備や避難場所等の必要諸要件の検討を行い、将来の大災害時に対する防災照明設備の整備について提案する。</p>	
2007 年度予算	55,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. シンポジウム「広域停電時の避難誘導 ~あなたの街は大丈夫?!~」 (共催：照明学会 屋外防災照明調査研究委員会) 参加者数：39 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 5 回の小委員会の開催によって目的とした議論がなされ、来年度の最終成果物となる報告書の概要が定まって来ており、今年度の目的は達成できた。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会開催にあたり委員の予定を調整するのが困難であり、効率良くスケジュール調整が可能なシステムを構築することが課題となる

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>傘下の WG の活動も非常に活発（明視環境設計資料 WG：3 回、防災照明 WG：2 回、関連シンポジウム 1 回）であり、小委員会の活動は非常に順調である。本年度は十分な活動ができたと考える。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。